

計画書(目論見)の概要

計画書(目論見)の概要は別添1～6参照。

- 横浜港：別添1
- 清水港：別添2
- 佐世保港：別添3
- 八代港：別添4
- 本部港：別添5
- 平良港：別添6

なお、計画書(目論見)の内容のうち、「岸壁等の利用に係る考え方と具体的な手順」は、各港とも概ね以下の内容であった。

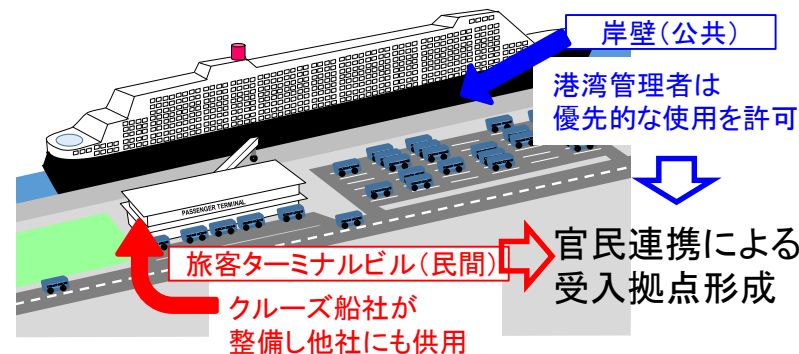
○優先的な使用を確保する期間

- 概ね15年間～20年間。いずれも、投資対象施設の管理運営期間と同一。

○優先的な使用を確保する方法

- 優先予約できる日数は、岸壁の状況やクルーズ船社の要望等を踏まえて設定。
- 実際に使用する年の1年～1年半前までに上記日数の範囲内で優先的に予約。1年～1年3か月前を過ぎると、他のクルーズ船社からも予約を受け付ける(通常の公共岸壁と同様の運用)。

【官民の連携による拠点形成のイメージ】



【岸壁の優先的な使用のイメージ】

- 投資した船社(A社)による予約(使用の1年～1年半前まで)

月	火	水	木	金	土	日
	A社		A社		A社	



- その後、A社以外の船社も予約可能(使用の1年～1年3か月前以降)

月	火	水	木	金	土	日
B社	A社	C社	A社		A社	

(注)計画書(目論見)の内容は、港湾管理者とクルーズ船社の協議により、変更が生じる場合がある。また、今後、関係者(国、港湾管理者、クルーズ船社等)は、計画書(目論見)の内容を踏まえ、必要なハード・ソフト両面の具体的な取組を検討していく。

【横浜港】官民連携国際クルーズ拠点形成計画書(目論見)の概要

別添1

応募者	横浜市、郵船クルーズ、カーニバル・コーポレーション&PLC(カーニバル社)
国際クルーズ拠点形成の目標	○飛鳥Ⅱに加え、ダイヤモンド・プリンセスの日本における母港化 ○東日本、東北、北海道方面へのクルーズ展開の拠点として、オールジャパンでのクルーズ振興を牽引
寄港回数目標	運用開始年(H31年):150回 目標年(H37年):200回

■新港地区

○**カーニバル社**が、日本発着クルーズの拠点として優先的に使用予定。

◆新港埠頭9号岸壁

(11万トン級対応(整備中))

◆旅客ターミナルビル(新設予定)<民間事業者>

○横浜市が公民連携事業により事業者を公募予定

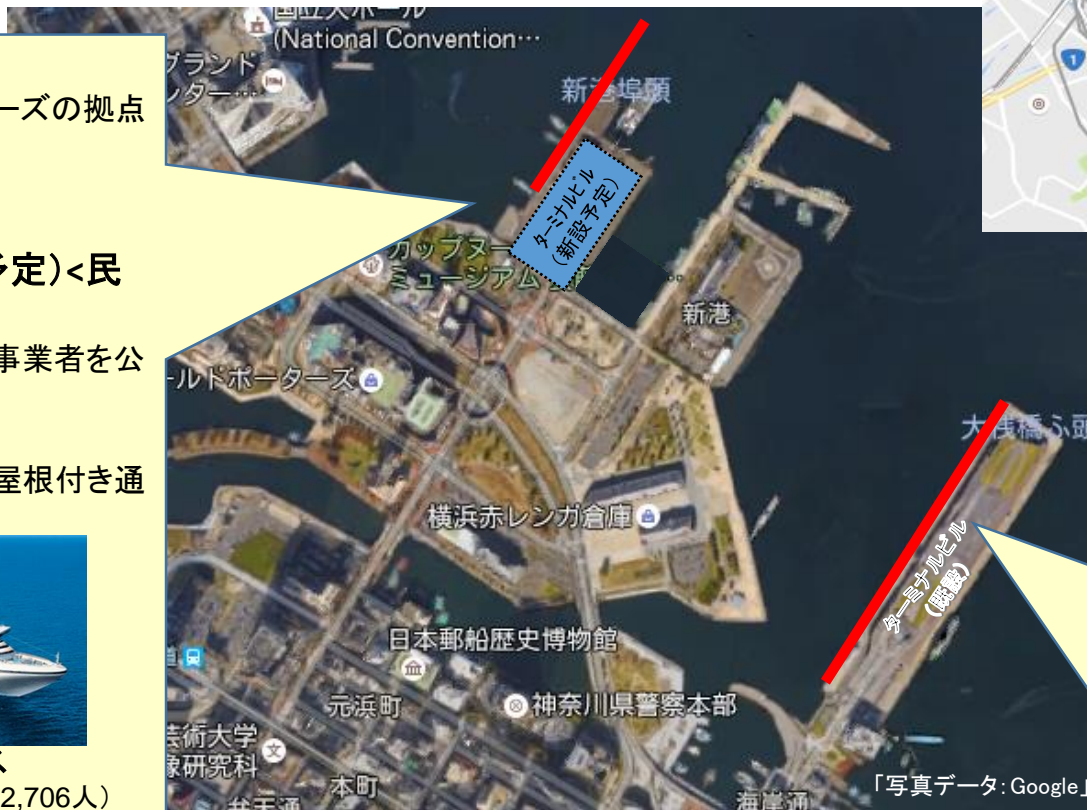
◆屋根付き通路<カーニバル社>

○カーニバル社が旅客のための屋根付き通路を整備



ダイヤモンド・プリンセス

(11万トン級、全長290m、乗客定員2,706人)



■大さん橋

○**郵船クルーズ**所有の「飛鳥Ⅱ」が母港として優先的に使用予定。

◆大さん橋C・D岸壁

(11万トン級対応(既設))

◆旅客ターミナルビル(既設)

- ・待合ラウンジ<郵船クルーズ>
- ・郵船クルーズ社が既存ターミナル内に待合ラウンジを整備



飛鳥Ⅱ

(5万トン級、全長241m、乗客定員872人)

応募者	静岡県、ゲンティン香港
国際クルーズ拠点形成の目標	<p>○ゲンティン香港が運営するクルーズラインの母港化と北東アジアクルーズの東日本における拠点化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本における北東アジアクルーズの拠点化(多様な寄港地観光、ファーストポートにふさわしい港湾施設の整備) ・寄港地から発着港へ(フライ&クルーズ、港を取り巻く地域の開発)
寄港回数目標	<p>運用開始年(H32年): 53回</p> <p>目標年 (H42年): 105回</p>

■日の出地区

○**ゲンティン香港**が、クルーズの寄港及び発着拠点として優先的に使用予定。

◆日の出地区4-5号岸壁

(22万トン級対応(既設))

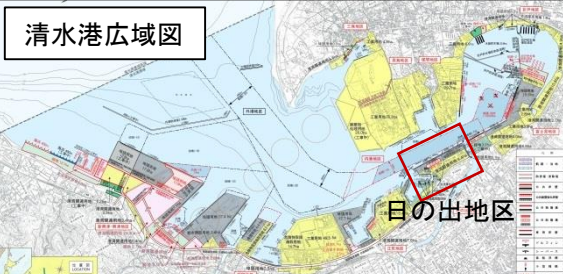
◆日の出地区1-3号岸壁

(7.5万トン級対応(計画)) ※貨客併用

◆旅客ターミナルビル<ゲンティン香港>

○ゲンティン社が世界最大級のクルーズ船に対応した旅客ターミナルビルを整備

日の出地区拡大図



日の出地区の整備イメージ

H32頃を目標とした整備の一例

H32頃を目標とした整備の一例



埠頭背後の低未利用地等との一体的な開発を目指していく。

埠頭背後の低未利用地等との一体的な開発を目指していく。

※清水都心ウォーターフロント地区開発基本方針(素案)より

【佐世保港】官民連携国際クルーズ拠点形成計画書(目論見)の概要 別添3

応募者	佐世保市、カーニバル・コーポレーション&PLC(カーニバル社)
国際クルーズ拠点形成の目標	東アジアからのゲートウェイ機能を有した日本有数の拠点港として発展していくことを目指す。
寄港回数 の目標	運用開始年(H32年): 200回 目標年(H36年): 300回

◆三浦地区

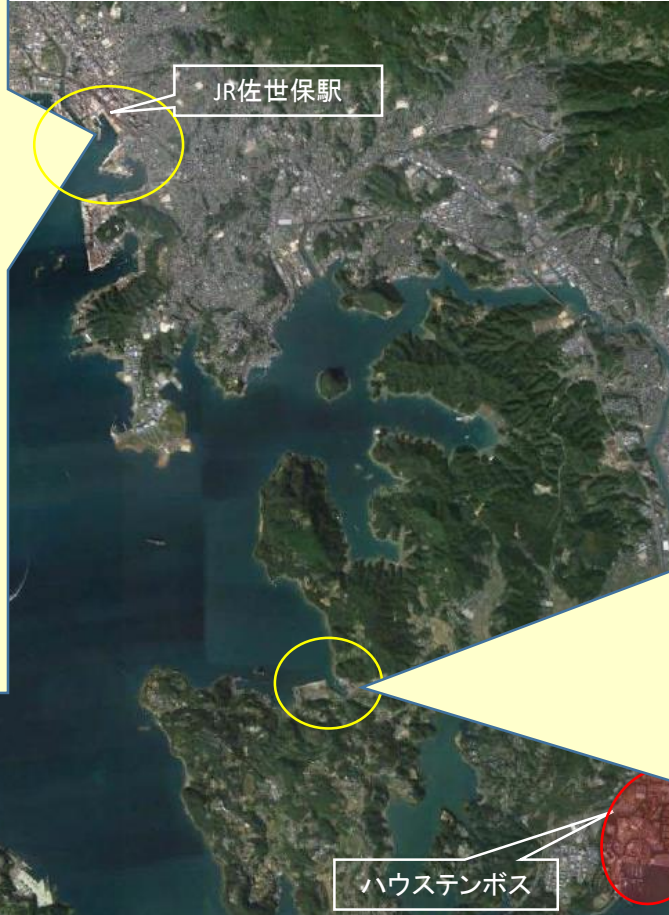
○16万トン級クルーズ船に対応するための改良工事を実施中。

◆岸壁

(16万トン級対応予定(既設・延伸整備中))

◆旅客ターミナルビル(既設)

佐世保港三浦地区



◆浦頭地区

○カーニバル社が、東アジアクルーズの日本における拠点港として優先的に使用予定。

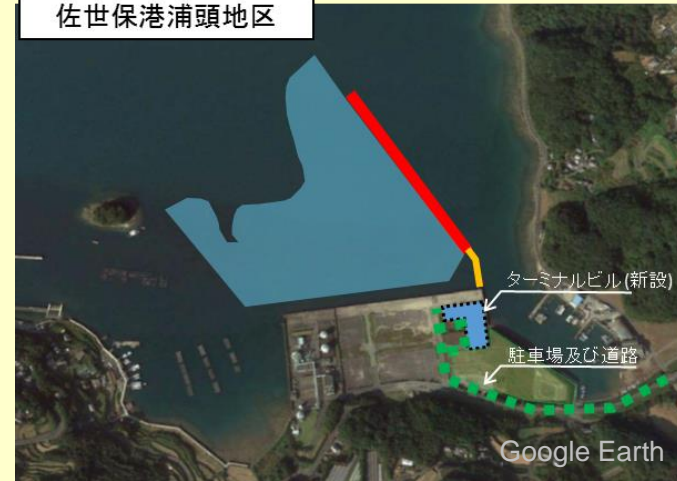
◆岸壁

(14万トン級対応(計画))

◆旅客ターミナルビル<カーニバル社>

カーニバル社が地元物産品の販売所を併設する旅客ターミナルビルを整備。

佐世保港浦頭地区



Google Earth

ハウステンボス

Google Earth

【八代港】官民連携国際クルーズ拠点形成計画書(目論見)の概要

別添4

応募者	熊本県、ロイヤル・カリビアン・クルーズ(RCL社)
国際クルーズ拠点形成の目標	○アジアに開くゲートウェイとしての「九州中央の大型クルーズ船の受入拠点」 ○災害時には救援物資等の補給の拠点として機能
寄港回数 の目標	運用開始年(H32年): 80回 目標年 (H42年): 150回

■外港地区

○RCL社が、九州中央の大型クルーズ船の受入拠点として優先的に使用予定。

◆岸壁

(22万トン級対応(計画))

(22万トン級対応(既設)) ※貨客併用

◆旅客ターミナルビル<RCL社>

RCL社がCIQ及び商業施設併設の旅客ターミナルビルを整備



応募者	沖縄県、ゲンティン香港
国際クルーズ拠点形成の目標	国際クルーズ拠点を形成することにより、北部地域の豊かな自然環境を活用したエコツーリズムや海洋レジャーの促進、新たな観光ルートの形成など、沖縄本島北部地域の振興に資する観光拠点を目指す。
寄港回数目標	運用開始年(H32年): 88回 目標年 (H42年): 104回

■本部地区

○**ゲンティン香港**が、中国・台湾発着クルーズの拠点として優先的に使用予定。

◆本部地区岸壁

(20万トン級対応(整備中))

◆旅客ターミナルビル<ゲンティン香港>

○ゲンティン香港がCIQホール、待合所、観光案内所等を有する旅客ターミナルビルを整備



ゲンティン・ドリーム

(15万トン級、全長335m、乗客定員3,352人)

※20万トン級は、2020年竣工予定



「写真データ: DigitalGlobe」



応募者	沖縄県宮古島市、カーニバル・コーポレーション&PLC(カーニバル社)
国際クルーズ拠点形成の目標	○中国発着クルーズの主要拠点寄港地 ○将来的には下地島飛行場の活用等を視野にフライ&クルーズによる発着港への発展
寄港回数 の目標	運用開始年(H32年):250回 目標年(H38年):310回

■漲水地区

○カーニバル社が、中国発着クルーズの拠点として優先的に使用予定。

◆漲水地区岸壁

(14万トン級(計画))

◆旅客ターミナルビル<カーニバル社>

○カーニバル社が快適なCIQ手続が受けられる旅客ターミナルビルを整備



マジェスティック・プリンセス
(14万トン級、全長380m、乗客定員3,460人)

■下崎地区

◆下崎地区岸壁(既設)

■漲水地区

◆漲水地区岸壁(整備中)

旅客施設(新設)

